

3 乗法・除法

1 乗法(1)

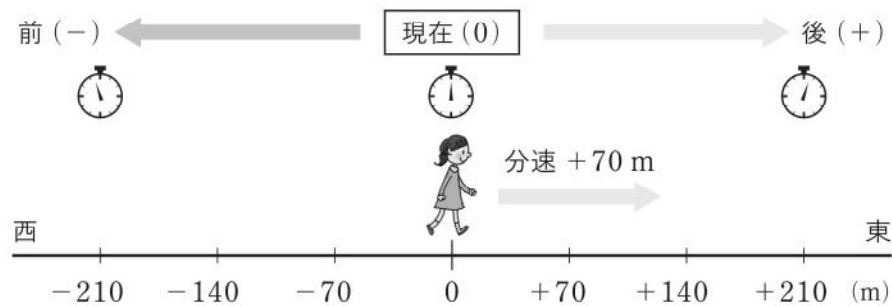
教科書p. 36

Q 真央さんは、東に向かって分速70mで歩いています。現在の地点を0mとし、東の方向を正の向き、1分後を+1分とします。

(1) 東に100mの地点、西に100mの地点を正、負の数を使って表しましょう。また、2分後、2分前を正、負の数を使って表しましょう。

東に100m ( **+100m** )                      西に100m ( **-100m** )  
 2分後 ( **+2分** )                              2分前 ( **-2分** )

(1) 真央さんは、1分後、2分後にはどの地点にいますか。また、1分前、2分前はどの地点にいましたか。次の図に矢印↓で示しましょう。



(2) 次の表の( )や□にあてはまる数を入れて、真央さんのいる地点を式で表しましょう。

| 時間       | 地点             | (速度) × (時間) → (地点)  |
|----------|----------------|---------------------|
| 2分後 (+2) | 140 m 東 (+140) | (+70) × (+2) = +140 |
| 1分後 (+1) | 70 m 東 (+70)   | (+70) × (+1) = □    |
| 現在 (0)   | 0 m (0)        | (+70) × (0) = □     |
| 1分前 (-1) | 70 m 西 (-70)   | (+70) × (-1) = □    |
| 2分前 (-2) | 140 m 西 (-140) | (+70) × (-2) = □    |

(3) 真央さんは、5分後、10分前には、それぞれどの地点にいますか。また、その地点を式で表しましょう。

5分後 ( **350m東, (+70) × (+5) = +350** )  
 10分前 ( **700m西, (+70) × (-10) = -700** )

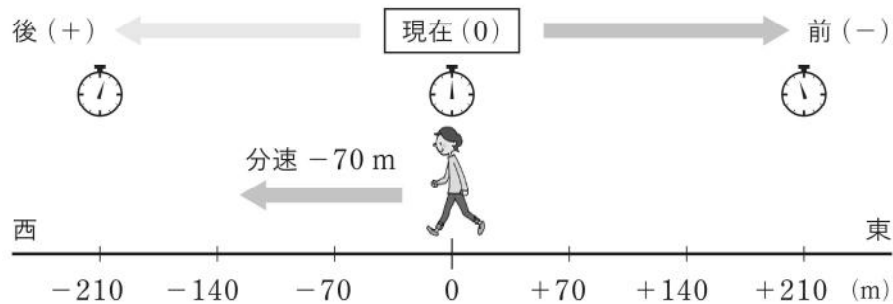
3 乗法・除法

1 乗法(2)

教科書p. 37

Q 太一さんは、西に向かって分速70mで歩いています。現在の地点を0mとし、東の方向を正の向き、1分後を+1分とします。

(1) 太一さんは、1分後、2分後にはどの地点にいますか。また、1分前、2分前はどの地点にいましたか。次の図に矢印↓で示しましょう



(2) 次の表の( )や□にあてはまる数を入れて、太一さんのいる地点を式で表しましょう。

| 時間      | 地点            | (速度) × (時間) → (地点)            |
|---------|---------------|-------------------------------|
| 2分後(+2) | 140 m 西(-140) | $(-70) \times (+2) = -140$    |
| 1分後(+1) | 70 m 西(-70)   | $(-70) \times (+1) = \square$ |
| 現在(0)   | 0 m (0)       | $(-70) \times (0) = \square$  |
| 1分前(-1) | 70 m 東(+70)   | $(-70) \times (-1) = \square$ |
| 2分前(-2) | 140 m 東(+140) | $(-70) \times (-2) = \square$ |

(3) 太一さんは、5分後、10分前には、それぞれどの地点にいますか。また、その地点を式で表しましょう。

5分後 ( 350m西,  $(-70) \times (+5) = -350$  )

10分前 ( 700m東,  $(-70) \times (-10) = +700$  )

問1 乗法(1)のQや上のQで、かける数が1増えるごとに、その積はどのように変化しているでしょうか。また、そのちがいについて書きましょう。

(例)乗法(1)の方は、積が70ずつ増える。かける数が0を境に負から正に変わる。

乗法(2)の方は、積が70ずつ減る。かける数が0を境に正から負に変わる。

3 乗法・除法

1 乗法(3)

教科書p. 38~39

符号や絶対値に着目した乗法

Q 正, 負の数の乗法では, 積の符号や絶対値は, かけ合わせる2数の符号や絶対値とどんな関係があるでしょうか。乗法(1), (2)のQの表をもとに考えましょう。

(例) かけ合わせる2数が同じ符号のとき, 積は正の符号になり, 絶対値は2数の絶対値の積になる。かけ合わせる2数が異なる符号のとき, 積は負の符号になり, 絶対値は2数の絶対値の積になる。

問1 次の式の□にあてはまる記号を書き入れましょう。

|  |  |
|--|--|
| $(1) (+2) \times (+3) = \boxed{+}(2 \times 3)$ $= \boxed{+}6$  | $(2) (-6) \times (-2) = \boxed{+}(6 \times 2)$ $= \boxed{+}12$ |
| $(3) (+9) \times (-3) = \boxed{-}(9 \times 3)$ $= \boxed{-}27$ | $(4) (-4) \times (+5) = \boxed{-}(4 \times 5)$ $= \boxed{-}20$ |

正, 負の数の乗法

- |   |        |   |                             |
|---|--------|---|-----------------------------|
| ① | 同符号の2数 | { | 符号 … 正の符号<br>絶対値 … 2数の絶対値の積 |
| ② | 異符号の2数 | { | 符号 … 負の符号<br>絶対値 … 2数の絶対値の積 |

問2 次の計算をしましょう。

|  |  |
|--|--|
| $(1) (+6) \times (+5)$ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"><math>= +30</math></div>  | $(2) (-7) \times (-8)$ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"><math>= +56</math></div>  |
| $(3) (+12) \times (-3)$ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"><math>= -36</math></div> | $(4) (-2) \times (+10)$ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"><math>= -20</math></div> |
| $(5) (-6) \times (+1)$ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"><math>= -6</math></div>   | $(6) (-6) \times (-1)$ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"><math>= +6</math></div>   |
| $(7) (-8) \times 0$ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"><math>= 0</math></div>       | $(8) 0 \times (+2)$ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"><math>= 0</math></div>       |

## 3 乗法・除法

## 1 乗法(4)

教科書p. 39

問1 次の計算をしましょう。

(1)  $(+2.1) \times (-0.8)$

$$= -1.68$$

(2)  $(-\frac{3}{4}) \times (-\frac{2}{7})$

$$= +\frac{3}{14}$$

問2 次の計算をしましょう。

(1)  $(+0.5) \times (-2)$

$$= -1$$

(2)  $(-3.6) \times (-1.4)$

$$= +5.04$$

(3)  $(-\frac{2}{3}) \times (-9)$

$$= +6$$

(4)  $(-\frac{4}{7}) \times (+\frac{7}{8})$

$$= -\frac{1}{2}$$

問3 次の計算をしましょう。

(1)  $(+4) \times (+2)$

$$= +8$$

(2)  $(-4) \times (-8)$

$$= +32$$

(3)  $(-7) \times (+9)$

$$= -63$$

(4)  $(+3) \times (-10)$

$$= -30$$

(5)  $(-18) \times (-3)$

$$= +54$$

(6)  $0 \times (-5)$

$$= 0$$

(7)  $(-4.8) \times (+1.3)$

$$= -6.24$$

(8)  $(+\frac{2}{3}) \times (-\frac{9}{2})$

$$= -3$$

(9)  $(-2.5) \times (-\frac{4}{3})$

$$= (-\frac{5}{2}) \times (-\frac{4}{3}) = +\frac{10}{3}$$

3 乗法・除法

1 乗法(5)

教科書p. 40

乗法の交換法則・結合法則

Q 次の⑦, ⑧の計算をして, その結果を比べましょう。

(1) ⑦  $(+4) \times (-3)$

⑧  $(-3) \times (+4)$

(2) ⑦  $\{(+2) \times (-4)\} \times (-5)$

⑧  $(+2) \times \{(-4) \times (-5)\}$

(1) ⑦, ⑧ともに-12で等しい。

(2) ⑦, ⑧ともに+40で等しい。

加法と同じように, 交換法則と結合法則が成り立つ。

問1 次の□にあてはまることばや記号を書き入れましょう。

正, 負の数の乗法でも, 次のことが成り立つ。

乗法の **交換法則**  $a \times b = \square b \times \square a$

乗法の **結合法則**  $(a \times b) \times c = a \times (b \times c)$

乗法では, **交換法則**や**結合法則**を使って, 数の順序や組み合わせを変えて計算することができる。

問2 結衣さんは,  $(-4) \times (+9) \times (-25)$ の計算を, 右のように行いました。①, ②の計算の手順を, それぞれ説明しましょう。

|                                   |   |   |
|-----------------------------------|---|---|
| $(-4) \times (+9) \times (-25)$   | } | ① |
| $= (+9) \times (-4) \times (-25)$ |   |   |
| $= (+9) \times (+100)$            | } | ② |
| $= +900$                          |   |   |

① 乗法の交換法則を使って, -4と+9を入れかえる。

② 乗法の結合法則を使って,  $(-4) \times (-25)$ を先に計算する。

問3 計算しやすい方法を考えて, 次の計算をしましょう。

(1)  $(-50) \times (+17) \times (-2)$

$= +1700$

(2)  $(+9) \times (-4.5) \times (+2)$

$= -81$

(3)  $(-\frac{1}{8}) \times (+3.6) \times (-8)$

$= +3.6$

(4)  $(+\frac{1}{3}) \times (-10) \times (-\frac{3}{5})$

$= +2$

3 乗法・除法

1 乗法(6)

教科書p. 41

いくつかの数の積の符号

Q 次の計算をしましょう。また、積の符号について気づいたことを書きましょう。

$$(1) (+5) \times (-2) = \boxed{-10}$$

$$(2) (+5) \times (-2) \times (-3) = \boxed{+30}$$

$$(3) (+5) \times (-2) \times (-3) \times (-1) = \boxed{-30}$$

積の符号は、負の数が1個のとき-、2個のとき+、3個のとき-、…と、負の数が1個増えるごとに変わっていく。

問1 次の□にあてはまる記号を入れましょう。

$$(1) (-3) \times (+2) \times (-4)$$

$$= \boxed{+}(3 \times 2 \times 4)$$

$$= \boxed{+}24$$

$$(2) (-16) \times (-\frac{5}{6}) \times (-3)$$

$$= \boxed{-}(16 \times \frac{5}{6} \times 3)$$

$$= \boxed{-}40$$

問2 次の計算をしましょう。

$$(1) (-5) \times (-6) \times (+2)$$

$$= +60$$

$$(2) (-7) \times (-\frac{3}{14}) \times (-\frac{4}{3})$$

$$= -2$$

問3 次の計算をしましょう。

$$(1) 4 \times (-2) \times 6$$

$$= -48$$

$$(2) -5 \times 2 \times (-7)$$

$$= 70$$

$$(3) (-3.5) \times (-2) \times 9$$

$$= 63$$

$$(4) -\frac{1}{3} \times 6 \times (-4) \times (-9)$$

$$= -72$$

$$(5) 8 \times (-3) \times \frac{1}{6} \times (-\frac{1}{4})$$

$$= 1$$

$$(6) (-5) \times (-5) \times (-5)$$

$$= -125$$

積の符号と絶対値

① 積の符号は、 $\left\{ \begin{array}{l} \text{負の数が偶数個あれば+} \\ \text{負の数が奇数個あれば-} \end{array} \right\}$ となる。

② 積の絶対値は、かけ合わせる数の絶対値の積となる。

3 乗法・除法

1 乗法(7)

教科書p. 42

累乗

問1 次の□にあてはまることばや数を書き入れましょう。

同じ数をかけ合わせたものを、その数の**累乗**という。

$5 \times 5$  を $5^2$ と表して、「5の**2乗**」

$5 \times 5 \times 5$  を $5^3$ と表して、「5の**3乗**」

と読む。また、いくつかけ合わせたかを示す数を、累乗の**指数**という。

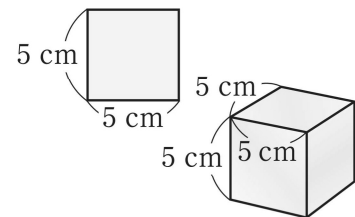
$$(-5) \times (-5) \times (-5) = (-5)^3 \quad \frac{2}{3} \times \frac{2}{3} = \left(\frac{2}{3}\right)^2$$

問2 次の式を、累乗の指数を使って表しましょう。

(1)  $2 \times 2 \times 2 = 2^3$       (2)  $(-4) \times (-4) = (-4)^2$       (3)  $(-\frac{3}{5}) \times (-\frac{3}{5}) = (-\frac{3}{5})^2$

問3 1辺5cmの正方形の面積や、1辺5cmの立方体の体積を、累乗の指数を使って表しましょう。

正方形の面積  $5^2 \text{ cm}^2$   
立方体の体積  $5^3 \text{ cm}^3$



問4 次の計算をしましょう。

(1)  $(-10)^2$

$= 100$

(2)  $-10^2$

$= -100$

(3)  $(-\frac{4}{7})^2$

$= \frac{16}{49}$

(4)  $0.3^2$

$= 0.09$

(5)  $(-2)^3$

$= -8$

(6)  $-2^3$

$= -8$

「1 乗法」について、まとめましょう。

(例) 正, 負の数の乗法も, 符号のきまりに気をつければ, 小学校のときのかけ算と同じようにできる。

乗法でも, 加法と同じように, 交換法則や結合法則が成り立つ。

3 乗法・除法

2 除法(1)

教科書p.43~44

Q 次の□にあてはまる数を書き入れましょう。

(1)  $(+3) \times (+2) = +6$        $(+6) \div (+2) = \boxed{+3}$

(2)  $(-3) \times (+2) = -6$        $(-6) \div (+2) = \boxed{-3}$

(3)  $(-3) \times (-2) = +6$        $(+6) \div (-2) = \boxed{-3}$

(4)  $(+3) \times (-2) = -6$        $(-6) \div (-2) = \boxed{+3}$

問1 正, 負の数の除法では, 商の符号や絶対値は, わられる数, わる数の2数の符号や絶対値とどんな関係があるでしょうか。Qの4つの除法の式をもとに説明しましょう。

符号は, わられる数, わる数の2数が同符号のときは正, 異符号のときは負になる。  
絶対値は, わられる数, わる数の2数の絶対値の商になる。

符号や絶対値に着目した除法

問2 次の□にあてはまる符号を書き入れましょう。

(1)  $(+14) \div (+7) = \boxed{+}(14 \div 7)$   
 $= \boxed{+}2$

(2)  $(-18) \div (-3) = \boxed{+}(18 \div 3)$   
 $= \boxed{+}6$

(3)  $(+8) \div (-2) = \boxed{-}(8 \div 2)$   
 $= \boxed{-}4$

(4)  $(-21) \div (+3) = \boxed{-}(21 \div 3)$   
 $= \boxed{-}7$

問3 次の計算をしましょう。

(1)  $(+18) \div (+9)$   
 $= \boxed{+2}$

(2)  $(-12) \div (-2)$   
 $= \boxed{+6}$

(3)  $(+25) \div (-5)$   
 $= \boxed{-5}$

(4)  $(-100) \div (+10)$   
 $= \boxed{-10}$

正, 負の数の除法

- ① 同符号の2数の商 { 符号 …正の符号  
 絶対値…2数の絶対値の商
- ② 異符号の2数の商 { 符号 …負の符号  
 絶対値…2数の絶対値の商



3 乗法・除法

2 除法(2)

教科書p. 44~45

問1 次の計算をしましょう。

(1)  $(+10) \div (+2)$

$= +5$

(2)  $(-8) \div (-4)$

$= +2$

(3)  $(+16) \div (-2)$

$= -8$

(4)  $(-24) \div (+8)$

$= -3$

(5)  $0 \div (-5)$

$= 0$

(6)  $(-3) \div (-6)$

$= 0.5$

(7)  $(+84) \div (-12)$

$= -7$

(8)  $(-1.2) \div (+4)$

$= -0.3$

(9)  $(-6.3) \div (-9)$

$= +0.7$

除法と逆数

問2 次の数の逆数を求めましょう。

(1)  $-\frac{4}{7}$  (  $-\frac{7}{4}$  ) (2)  $-\frac{1}{6}$  (  $-6$  ) (3)  $-5$  (  $-\frac{1}{5}$  ) (4)  $-1$  (  $-1$  )

問3 次の㊷, ㊸の計算をして, その結果を比べ, 気づいたことを書きましょう。

㊷  $15 \div (-3)$       ㊸  $15 \times (-\frac{1}{3})$

㊷, ㊸ともに $-5$ で等しい。

除法はわる数を逆数にすると, 乗法に直すことができる。

正, 負の数でわることは, その数の逆数をかけることと同じである。

問4 次の計算をしましょう。

(1)  $10 \div (-6)$

$= -\frac{5}{3}$

(2)  $(-\frac{2}{5}) \div (-\frac{2}{3})$

$= \frac{3}{5}$

(3)  $(-\frac{1}{3}) \div \frac{3}{4}$

$= -\frac{4}{9}$

(4)  $(-\frac{3}{5}) \div (-\frac{9}{10})$

$= \frac{2}{3}$

(5)  $6 \div (-\frac{4}{3})$

$= -\frac{9}{2}$

(6)  $(-\frac{5}{6}) \div (-3)$

$= \frac{5}{18}$

3 乗法・除法

2 除法(3)

教科書p. 46

乗法と除法の混じった計算

Q 悠悟さんは、 $24 \div (-3) \times 2$ の計算を、右のように行いました。  
この計算は正しいでしょうか。また、その理由を説明しましょう。

正しいかな？

$$\begin{aligned} & 24 \div (-3) \times 2 \\ &= 24 \div (-6) \\ &= -4 \end{aligned}$$

正しくない。

$24 \div (-3)$ を先に計算する。

問1 次の□にあてはまる数や符号を書き入れましょう。

$$\begin{aligned} 4 \div \left(-\frac{6}{7}\right) \times (-9) &= 4 \square \left(-\frac{7}{6}\right) \times (-9) \\ &= \square (4 \times \frac{7}{6} \times 9) \\ &= 42 \end{aligned}$$

問2 次の計算をしましょう。

(1)  $(-7) \div 2 \times (-4)$

$$\begin{aligned} &= (-7) \times \frac{1}{2} \times (-4) \\ &= 14 \end{aligned}$$

(2)  $20 \times (-5) \div \left(-\frac{1}{3}\right)$

$$\begin{aligned} &= 20 \times (-5) \times (-3) \\ &= 300 \end{aligned}$$

(3)  $6 \div \left(-\frac{2}{3}\right) \times \left(-\frac{5}{9}\right)$

$$\begin{aligned} &= 6 \times \left(-\frac{3}{2}\right) \times \left(-\frac{5}{9}\right) \\ &= 5 \end{aligned}$$

(4)  $\frac{2}{3} \div \left(-\frac{3}{8}\right) \div 4$

$$\begin{aligned} &= \frac{2}{3} \times \left(-\frac{8}{3}\right) \times \frac{1}{4} \\ &= -\frac{4}{9} \end{aligned}$$

まとめ

正、負の数の除法も、わる数を逆数にすることで乗法に直すことができる。  
乗法と除法の混じった計算は、乗法だけの式に直して計算するとよい。

3 乗法・除法

3 四則の混じった計算(1)

教科書p. 47~48

Q 真央さんは、 $25 + (-2) \times 10$ の計算を次のように行いました。この計算は正しいでしょうか。また、その理由を説明しましょう。

正しいかな？

$$\begin{aligned} & 25 + (-2) \times 10 \\ & = 23 \times 10 \\ & = 230 \end{aligned}$$

正しくない。  
 $(-2) \times 10$ を先に計算する。

問1 次の□にあてはまる数を書き入れましょう。

|                         |                         |                      |
|-------------------------|-------------------------|----------------------|
| (1) $5 + (-2) \times 4$ | (2) $(-12 - 20) \div 4$ | (3) $45 \div (-3)^2$ |
| $= 5 + \square$         | $= \square \div 4$      | $= 45 \div \square$  |
| $= \square$             | $= \square$             | $= \square$          |

問2 次の計算をしましょう。

|                           |                                       |
|---------------------------|---------------------------------------|
| (1) $-7 + (-3) \times 2$  | (2) $8 + (-20) \div (-4)$             |
| $= \square$               | $= \square$                           |
| (3) $14 - 10 \times (-3)$ | (4) $(-6) \times (-5) - (-18) \div 6$ |
| $= \square$               | $= \square$                           |
| (5) $(7 - 19) \div 3$     | (6) $(-2) \times (4 - 9)$             |
| $= \square$               | $= \square$                           |
| (7) $21 \div (-2 - 5)$    | (8) $\{6 - (-3)\} \times 8$           |
| $= \square$               | $= \square$                           |
| (9) $12 \div (-2)^2$      | (10) $-3^2 + 10$                      |
| $= \square$               | $= \square$                           |
| (11) $6 - (-4)^2$         | (12) $(-6)^2 + (-7^2)$                |
| $= \square$               | $= \square$                           |

3 乗法・除法

3 四則の混じった計算(2)

教科書p. 48

問1 次の計算をしましょう。

(1)  $4 + 7 \times (6 - 7)$

$= -3$

(2)  $10 - (-8 + 5) \times 6$

$= 28$

(3)  $(6 - 2^3) \times (-3)$

$= 6$

(4)  $(-4)^2 + 25 \div (-5^2)$

$= 15$

(5)  $\frac{1}{3} + (-\frac{2}{3})^2$

$= \frac{9}{7}$

(6)  $\frac{1}{4} - \frac{3}{7} \div \frac{4}{7}$

$= -\frac{1}{2}$

分配法則

Q 次の㊷, ㊸の計算をして, その結果を比べ, 気づいたことを書きましょう。

㊷  $(-5) \times \{(-4) + 6\}$

㊸  $(-5) \times (-4) + (-5) \times 6$

㊷, ㊸ともに-10で等しい。

負の数があっても, 小学校のときと同じように計算のきまりが成り立つ。

問2 次の□にあてはまる数を書き入れましょう。

$$12 \times (\frac{1}{2} - \frac{1}{3}) = \boxed{12} \times \frac{1}{2} + \boxed{12} \times (-\frac{1}{3})$$

$$= \boxed{6} - \boxed{4}$$

$$= \boxed{2}$$

問3 分配法則を利用して, 次の計算をしましょう。

(1)  $28 \times (-\frac{1}{4} + \frac{1}{7})$

$= -7 + 4$   
 $= -3$

(2)  $(\frac{3}{4} - \frac{5}{6}) \times 36$

$= 27 - 30$   
 $= -3$

(3)  $17 \times 9 + 17 \times (-8)$

$= 17 \times (9 - 8)$   
 $= 17$

(4)  $69 \times (-7.2) + 31 \times (-7.2)$

$= (69 + 31) \times (-7.2)$   
 $= -720$

「2 除法」について, まとめましょう。

(例) 除法は, わる数を逆数にして乗法に直すことができる。

乗法, 除法が混じった計算では, 乗法だけの式に直して計算するとよい。

3 乗法・除法

5 数の集合と四則

教科書p. 52～53

問1 次の□にあてはまることばを書き入れましょう。

「自然数全体」や「整数全体」のように、ある条件にあてはまるものをひとまとまりにして考えるとき、それを**集合**という。

自然数の集合は、整数の集合に**ふくまれる**。また、整数の集合は、分数や小数をふくんだ、すべての数の集合に**ふくまれる**。

問2 次の表で、数の範囲を左側にあげた数の集合として四則を考えます。計算がつねにできるものには○、できるとは限らないものには×を書き入れましょう。また、×の場合には、計算ができない例を1つ示しなさい。ただし、除法では、0でわることは除いて考えるものとします。

|       | 加法 | 減法           | 乗法 | 除法               |
|-------|----|--------------|----|------------------|
| 自然数   | ○  | ×<br>例 $5-6$ | ○  | ×<br>例 $2\div 3$ |
| 整数    | ○  | ○            | ○  | ×<br>例 $2\div 3$ |
| すべての数 | ○  | ○            | ○  | ○                |

問3 次の□にあてはまることばを書き入れましょう。

自然数の集合では、**加法**と**乗法**の計算はつねにできる。

数の集合を整数の集合にまで広げると、加法と乗法のほかに、**減法**もつねにできるようになる。

さらに、数の集合をすべての数の集合にまで広げると、0でわることを除いた**四則**がつねにできるようになる。

このように、数の集合は、四則が自由にできるように広げられてきたと考えることができる。

3 乗法・除法

確かめよう

教科書p. 54

1 次の計算をしましょう。

(1)  $(+8) \times (-9)$

$= -72$

(2)  $(-7) \times (-3)$

$= 21$

(3)  $-10 \times 6$

$= -60$

(4)  $8 \times (-2) \times (-4)$

$= 64$

(5)  $(-7)^2$

$= 49$

(6)  $-6^2$

$= -36$

2 次の計算をしましょう。

(1)  $(-27) \div (+3)$

$= -9$

(2)  $(-30) \div (-6)$

$= 5$

(3)  $15 \div (-9)$

$= -\frac{5}{3}$

(4)  $(-\frac{5}{8}) \div (-\frac{3}{4})$

$= \frac{5}{6}$

3 次の計算をしましょう。

(1)  $18 \div (-6) \times (-2)$

$= 6$

(2)  $5 \times (-4) \div \frac{2}{3}$

$= -30$

4 次の計算をしましょう。

(1)  $10 + 2 \times (-7)$

$= -4$

(2)  $(-4) - 15 \div (-3)$

$= 1$

(3)  $-5 \times (6 - 9)$

$= 15$

(4)  $18 + 4 \times (1 - 7)$

$= -6$

(5)  $16 \div (-4)^2$

$= 1$

(6)  $12 - 5^2$

$= -13$

5 分配法則を利用して、次の計算をしましょう。

(1)  $18 \times (-\frac{1}{6} + \frac{7}{9})$

$= -3 + 14$

$= 11$

(2)  $(-6) \times 55 + (-6) \times 45$

$= (-6) \times (55 + 45)$

$= -600$

6 四則の中で、自然数の集合でつねに計算できるものをいみましょう。また、整数の集合でつねに計算できるものをいみましょう。

自然数の集合…加法, 乗法

整数の集合…加法, 減法, 乗法